

第9章 酸性雨調査結果

一般的に硫黄酸化物や窒素酸化物等の大気汚染物質の影響により、雨水のpH(水素イオン濃度)が5.6以下となった雨を酸性雨と呼ぶ。

酸性雨は欧米を中心に土壌や河川、湖沼の酸性化による生態系の変化、森林の衰退等の問題を引き起こしている。

本県では、こうした現象は観測されていないが、県内における酸性雨の実態の把握と発生メカニズムの解析を目的として、昭和60年より調査をおこなっている。

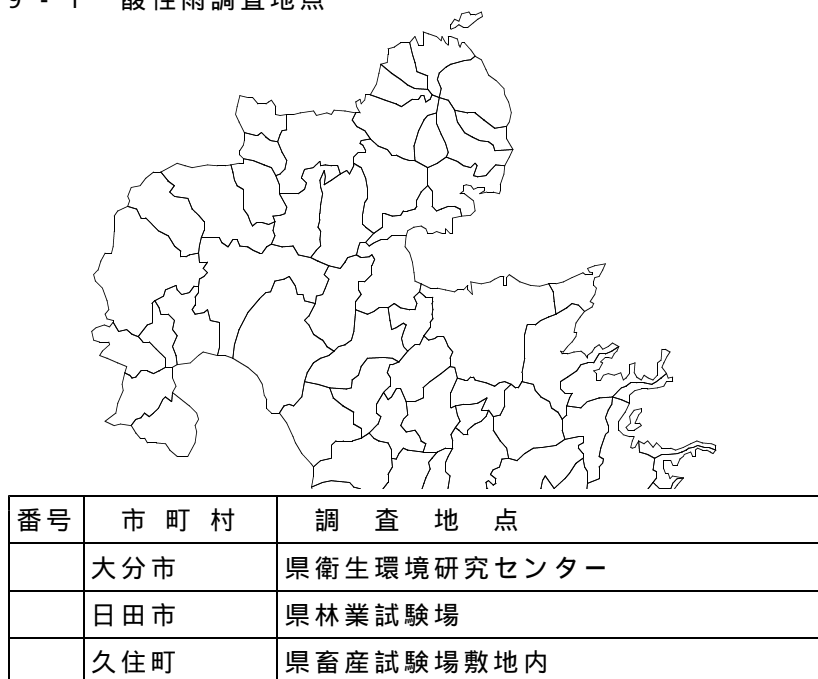
また、平成6年度からは、環境省の委託を受け、久住町において、国設酸性雨測定局での調査を開始した。

調査地点・期間

調査地点：大分市、日田市、久住町の計3地点。

調査期間：平成14年4月～平成15年3月

図9-1 酸性雨調査地点



調査方法

ろ過式雨水採取装置により一週間及び二週間ごとの降水を採取し、pH計によりpHを測定する。

調査結果

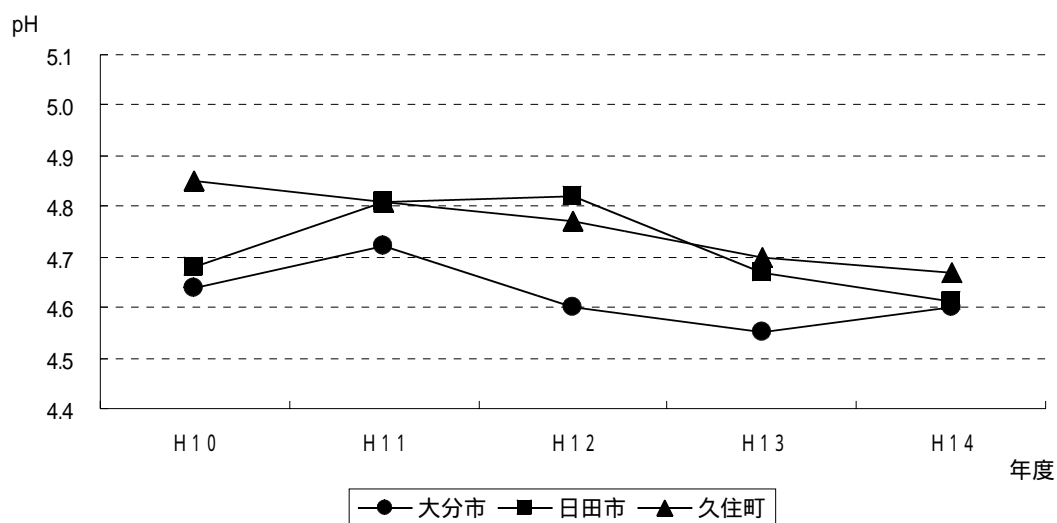
各地点のpH年平均値は大分市の4.60から久住町の4.67までの間にあり、全測定地点で酸性雨の目安であるpH5.6を下回っている。

各調査地点の雨水のpHの年平均値の経年変化を表9 - 2に示す。

過去5年間では、4.5～4.9の値で変動している。

表9 - 2 雨水のpHの年平均値の経年変化

年度	H 1 0	H 1 1	H 1 2	H 1 3	H 1 4
大分市	4.64	4.72	4.60	4.55	4.60
日田市	4.68	4.81	4.82	4.67	4.61
久住町	4.85	4.81	4.77	4.70	4.67



参 考 全国の国設酸性雨測定所の調査状況

区 分	平成10～12年度
最小値	4.52
最大値	6.05
平均値	4.82